

事務事業名	衛生センター運営事業（し尿処理業務）	整理番号	31303-000
所管	衛生センター 業務スタッフ		

事務事業の位置付け

期間	昭和40年度～平成年度	根拠法令・要綱等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律
基本計画における位置付け	基本政策	3-1 環境の保全と自然との共生	関連政策
	政策	3-1-3 適切な生活排水処理の推進	下記から選択してください

事務事業の内容

目的（何のために）	管内（御殿場市・小山町）から発生するし尿及び浄化槽汚泥を、生活環境の保全上支障が生じないように処理するため。
対象（誰・何を）	御殿場市民及び小山町民
手段（どのようなやり方で）	し尿処理施設において、し尿及び浄化槽汚泥を処理する。
成果（どのような状態にしたいか）	年間約42,000キロリットルのし尿及び浄化槽汚泥を適正に処理する。
事務事業の背景・住民の意向	施設の性格上、迷惑施設ではあるが必要不可欠な施設である、事業開始から41年が経過したが、この間、施設の改修、新設等により、地域住民の理解を得られるよう環境の保全に万全を期している。
見直し改善の経過	昭和44年54KL/日施設を26KL/日増設、80KL/日施設とした。昭和53年80KL/日施設の改修。昭和54年40KL/日施設の新設。昭和60年80KL/日施設を廃止、100KL/日施設の新設、40KL/日施設の改修。平成14・15・16年で100KL/日施設の改修。

事務事業の実績・投入コスト

年度	事務事業実績	投入コスト(千円)
平成16年度	し尿及び浄化槽汚泥搬入量 41,066.07KL (生し尿 12% 浄化.合併 88%) (受入日数246日)	
平成17年度	し尿及び浄化槽汚泥搬入量 41,145.79KL (生し尿 11% 浄化.合併 89%) (受入日数244日)	
平成18年度	し尿及び浄化槽汚泥搬入量 41,728.53KL (生し尿 11% 浄化.合併 89%) (受入日数246日)	

評価指標

--	--	--

事務事業の評価

観点別・一次評価（担当部署の評価）		コメント	今後の方向性
観点別評価	必要性	市民・町民が生活を営む上で必要不可欠な施設であり、コスト削減等効率性を図りつつ、安定した水処理業務が遂行されている。	継続
	有効性		
効率性			
一次評価	A		
二次評価（行政評価委員会の評価）		コメント	今後の方向性
二次評価	B	効率的な運営とコストの削減に努められたい。	継続

改革プラン

平成19年度からの対応	施設運転管理の総合的なコストの削減を図るため、施設運転管理の民間委託化を検討する。
平成20年度以降の対応	民間委託化へ移行。
改革により予想される成果	施設設備機器の構造及び施設運転のノウハウを熟知した民間管理会社に運転管理を委託することにより、適正な運転と効率化が期待出来る。ひいては、総合的にコスト縮減が期待できる。